

一ハルシナイから上流の地名⑧

明治二十年五月に、上川仮新道の忠別太・空知太間の改修工事が着工、二年九月に竣工する。掲載地図①「現行図」の旧国道十二号は、この時に初めて開削されたのである。

明治二十三年、永田方正は上川を調査し、明治二十四年に『北海道蝦夷語地名解』を刊行し、掲載地図①のレー口ロ・ブイラについて、次のように書いた。

「レイコロ・ブイラ(rei-koro-puira)有名ノ激湍—此崖ニ棧道アリ、名瀬ノ棧ト名クルモ可ナルベシ。(湍は、早瀬・急流の意味)

棧道とは、「切り立った山腹や崖などに沿つて、木材で棚のように張り出して設けた道」(『大辞林』)である。明治二十三年に永田方正が調査したレー口ロ・ブイラの左岸は、このように棧道もある状況だったのである。

ところが、松浦武四郎がレー口ロ・ブイラについて記述されていないのである。さて、明治三十年に当地方初の五万分一の地形図の『北海道仮製五万分一図』が製版された。掲載地図②「仮製五万分一図」が、カムイコタンとその上流部分図である。この地図の河川名は、基本的に永田方正の『北海道蝦夷語地名解』の河川名が記載されている。

下流のカムイウツカ(kamuy-utka)神瀬の所に誤って記され、その上、現在の神居古潭大橋の位置に「名瀬の橋」とまで書かれている。明らかに、永田方正の地名解のレー口ロ・ブイラが、誤って、ここに書かれたのである。

他方、本来のレー口ロ・ブイラの位置には、「チブ子ハッタフ」、旧国道十二号の覆道の所には、「舟淵棧道」と書いてある。これは、『北海道蝦夷語地名解』のレー口ロ・ブイラの次項の上流の地名解がこの位置に書かれたもので、明確な誤りである。

最後に、安政四年(一八五七年)に松浦武四郎が書いた「レイコロフライラ一大岩川中に三ツ有。其左右向浪立より号ること也。」の一文について検討する。

写真④

さて、昭和三十五年に、知里真志保は、「上川郡アイヌ語地名解」で、「レー口ロ・ブイラ(rei-kor-puira)名を・もつ・激湍」と地名解するが、その位置を、誤つて掲載地図①のトウレプサラニップの上流としている。ま

しかし、永田方正が書いたレー口ロ・ブイラ(★印を付す)が、カムイコタンの下流のカムイウツカ(kamuy-utka)神瀬の所に誤って記され、その上、現在の神居古潭大橋の位置に「名瀬の橋」とまで書かれている。明らかに、永田方正の地名解のレー口ロ・ブイラが、誤って、ここに書かれたのである。

他方、本来のレー口ロ・ブイラの位置には、「チブ子ハッタフ」、旧国道十二号の覆道の所には、「舟淵棧道」と書いてある。これは、『北海道蝦夷語地名解』のレー口ロ・ブイラの次項の上流の地名解がこの位置に書かれたもので、明確な誤りである。

最後に、安政四年(一八五七年)に松浦武四郎が書いた「レイコロフライラ一大岩川中に三ツ有。其左右向浪立より号すること也。」の一文について検討する。

結論として、地名解は、レー口ロ・ブイラ(rei-kor-puira)名前・を持つ・激流→「有名な激流」の意味)。その位置は、掲載地図①「現行図」の当該位置が正しいと判定した。

断章 旭川のアイヌ語 地名研究

98

高橋 基



③トウレプサラニップ



④レー口ロ・ブイラを下る



①現行図

②明治30年製版
仮製五万分一図

さて、昭和三十五年に、知里真志保は、「上川郡アイヌ語地名解」で、「レー口ロ・ブイラ(rei-kor-puira)名を・もつ・激湍」と地名解するが、その位置を、誤つて掲載地図①のトウレプサラニップの上流としている。また、当連載④で